

洋学研究誌『一滴』収録論稿目録（第30号まで）

○創刊号 平成4年（1992）3月発行 在庫切れ

- ・ 宇田川槐園についてのノート－宇田川三代墓地移転に際して－ 道家達将 1
- ・ 東京大学に宇田川玄随および榕菴夫妻のご遺骨をお迎えして 神谷敏郎 61
- ・ 五世 宇田川玄随（槐園）先生の遺骨 鈴木 尚 69
- ・ 宇田川榛斎（玄真）病状記とその1年 幸田正孝・下山純正 82
- ・ <郷土洋学資料紹介> 芳村杏斎蔵書目録（津山歴史民俗館提供） 134

○第2号 平成6年（1994）7月発行 1,000円

- ・ アルビヌスとデイクテン
- －18世紀オランダの解剖学と『解体新書』－ 石田純郎 1
- ・ <郷土洋学資料紹介> 山田純造蔵書目録 48
- ・ 杉田玄白と作州の門弟小林令助 片桐一男 96(1)

○第3号 平成7年（1995）8月発行 800円

- ・ 石阪堅壯の著述・詩文・墨蹟などについて 中山 沃 1
- ・ 『植学啓原』の諸版と売れ行き 幸田正孝 48
- ・ 平成6年度特別展 「甦る長崎町屋の生活」展示品目録 83

○第4号 平成8年（1996）9月発行 800円

- ・ 西説内科撰要とその周辺 大滝紀雄 1
- ・ 幕末明治期における新約聖書の和訳をめぐる人々 宮地哉恵子 15
- ・ 蘭学者 牧 穆中 福島和久 39
- ・ 開国前後の日本における西洋英雄伝
- －小関三英と箕作阮甫のナポレオン伝－ 岩下哲典 48
- ・ 『一滴』第3号所載
- 「石阪堅壯の著述・詩文・墨蹟などについて」の追加と訂正 72
- ・ 平成7年度特別展報告 －わが国最初の理学博士－伊藤圭介の博物学 73

○第5号 平成9年(1997)10月発行 800円

- ・ロシアと係わりを持った岡山県人 保田孝一 1
- ・宇田川榕菴訳『百綱全譜』(1838-39年)
- 現存最古の独書和訳 - 高橋輝和 15
- ・オランダにおける江戸時代日本のタイムカプセル
- シーボルト収集日本植物を中心として - 大森 實 38
- ・平成8年度特別展報告
エドワード・ジェンナー種痘実施200年記念
江戸時代種痘の普及と美作 61

○第6号 平成10年(1998)10月発行 800円

- ・石井宗謙・信義親子と津下精斎・鼎甫(島村)兄弟 津下健哉 1
- ・安岡(のちの宇田川)玄真による『アールドゲワッセン』と
『ハルマ』の翻訳-玄真が宇田川家に入るまで- 幸田正孝 9
- ・幕末から明治期における寒村医家の思想と動静
鶴田藩(旧浜田藩医)能勢道仙と子息萬の場合 下山純正 55
- ・平成9年度特別展報告
- 未知なる学問への挑戦-江戸蘭学と美作の洋学者たち 73

○第7号 平成11年(1999)10月発行 800円

- ・フォン・シーボルトとオランダ商館長デ・ステュルレル 栗原福也 1
- ・宇田川榕菴の造語「舎密加」「舎密」の出現と
漢語・漢字の選択に関する一考察 菅原国香 26
- ・南蛮医学のルーツを求めて-スペインの古い病院と大学、
ポルトガルのミゼルコルディアを巡る旅 石田純郎 49
- ・長崎貿易における染織輸入
- 文政5年(1822)を中心として - 石田千尋 86
- ・箕作麟祥とフランス法学 小笠原幹夫 113
- ・平成10年度特別展報告 宇田川家三代自筆資料展 122

○第8号 平成12年(2000)10月発行 800円

- ・宇田川榕菴蔵張込帖所載のカラフト図について 大野延胤 1
- ・宇田川興斎の『日間鎖事録』(弘化二年) 遠藤正治 24
- ・幕末オランダ対日外交政策への一視点
- 『オランダ日本開国論』の手書き原稿から考察した 小暮実徳 65
- ・お目見え-陪臣蘭方医の位置付けについて- 乾 康二 85
- ・平成11年度特別展報告
- 箕作阮甫生誕200周年記念 箕作阮甫自筆資料展 98
- ・東京大学医学図書館呉文庫蔵、箕作阮甫の秋坪宛書簡 土井康弘 155(1)

○第9号 平成13年(2001)10月発行 800円

- ・言語学者、宇田川榕菴の稿本『六の緒』 高橋輝和 1
- ・津田真道と箕作麟祥のラテン語学書 原田裕司 15
- ・オランダ商館長ドゥーフとフヴォストフ文書 松本英治 77
- ・平成12年度特別展報告 日蘭交流400周年記念
- それぞれの日蘭交流-武士・町人・オランダ人- 107
- ・奥州一関地方と作州津山
- 蘭学における相互関係と出版状況をさぐる- 鈴木幸彦 158(1)

○第10号 平成14年(2002)10月発行 800円

- ・幕末期における旗本用人の情報入手とその伝達 石山秀和 102(1)
- ・箕作秋坪と清水卯三郎 高橋勇市 82
- ・<史料紹介> 岸本東民「長州征討従軍日記」 56
- ・平成13年度特別展報告 杉田玄白門人 小林令助とその時代 1

○第11号 平成15年(2003)10月発行 800円

- ・ブレスラウ(現ヴロツワフ)の今昔
- 102年前のドイツ留學生の絵葉書から 石田純郎・小田皓二 1
- ・平成14年度特別展報告 シーボルト最後の門人 三瀬諸淵の生涯 55

・尾張藩士間瀬権右衛門が勝海舟から入手した情報 土井康弘 128(1)

○第12号 平成16年(2004)11月発行 800円

- ・宇田川玄真訳述の『遠西軍中備要方』について
 - －原本並びに他訳との比較－ 中西淳朗 1
- ・津田真道における『泰西国法論』と『表記提綱』の世界 大久保健晴 21
- ・平成15年度特別展報告
 - 横山廉造と香杏館 ーある在村蘭方医の一生ー 67
- ・<平成15年度特別展関連資料紹介> 山田方谷の横山廉造宛書簡について 96
- ・オランダ通詞西吉十郎の「御用留」(1) 土井康弘 136
- ・尾張藩士間瀬権右衛門が勝海舟から入手した情報
(前号『一滴』第11号論文の注と文献・資料編) 土井康弘 176(1)

○第13号 平成17年(2005)10月発行 800円

- ・『草木図説』の出版
 - ー宇田川興斎の「勤書」(早稲田大学蔵)などにみるー 幸田正孝 1
- ・箕作阮甫が舶載蘭雑誌で知ったモリソン号渡来の真相 野村正雄 95
- ・平成16年度(津山城築城400年記念)特別展報告
 - 素晴らしき津山洋学の足跡 129
- ・オランダ通詞西吉十郎の「御用留」(2) 土井康弘 218(1)

○第14号 平成18年(2006)12月発行 800円

- ・ナポレオン戦記を伝えた舶載蘭書
 - ー箕作阮甫『ヘットスコーンフルボンド野戦之記』の原典
及び小関三英愛読の「リンデンの書」ー 野村正雄 1
- ・箕作阮甫が写していたシーボルトの山岳測高
 - ー雲仙岳を4287フィートと算出するまでー 野村正雄 23
- ・『航海金針』の成立と流布 八耳俊文 41

- ・鳥羽藩医安藤文沢が武蔵国比企郡都幾川村の小室家にもたらした
医療および対外情報 土井康弘 65
- ・平成17年度（久原躬弦生誕150周年記念）特別展報告
津山藩医久原家と化学者久原躬弦 81
- ・オランダ通詞西吉十郎の「御用留」(3) 土井康弘 150(1)

○第15号 平成20年（2008）3月発行 800円

- ・幕末のアイヌ風俗改変政策と対ロシア問題 濱口裕介 1
- ・箕作阮甫の著訳に利用された蘭書の探索・調査 野村正雄 15
- ・箕作阮甫の西洋史著訳を巡って
－なぜ古代に次ぎナポレオン時代かなど－ 野村正雄 43
- ・平成18年度特別展報告 森本家が守り伝えた津山洋学の至宝展 59
- ・オランダ通詞西吉十郎の「御用留」(4) 土井康弘 118(1)

○第16号 平成20年（2008）12月発行 800円

- ・著訳者の卓見か、原典蘭書の調査不足か－事例を中心に－ 野村正雄 1
- ・平成19年度特別展報告 美作に残る岸田吟香の足跡 17
- ・オランダ通詞西吉十郎の「御用留」(5、止) 土井康弘 80(47)
- ・蘭書『ニューウェ・アトラス』をめぐる
松平定信と周辺の絵師や蘭学者たち 磯崎康彦 126(1)

○第17号 平成21年（2009）12月発行 800円

- ・宇田川玄真・榕菴の西洋食文化研究 上野晶子 1
- ・シェイス著『オランダ日本開国論』付属資料Ⅲ
「『ペリー提督日本遠征記』への反論」とその考察
－幕末期のアジアにおける欧米列強の国際関係を背景として 小暮実徳 19
- ・津山藩主松平齊民と大槻磐溪各々の貼込帖に載る
西洋の版画数枚の委細解明と二人の交流 野村正雄 39
- ・平成20年度（創立30周年記念）特別展報告 ペリーが来たぞ！ 53

- ・ <資料・史跡紹介> 日高秩父が揮毫したある石碑について
 - 碑文の下書から探る - 小島 徹 67
- ・ 『渋川氏記録』(東京大学総合図書館蔵)の翻刻 土井康弘 110(1)

○第18号 平成23年(2011)2月発行 800円

- ・ 第25回国民文化祭 洋学シンポジウム報告
 「江戸時代の国際文化交流～洋学・異国人・異国船～」 1
 基調報告：江戸の海外情報と出版－長崎屋と須原屋－(竹内誠)
 報告①：外国人の見た日本人(山本博文)
 報告②：ペリー・ハリスと時代考証(大石学)
 報告③：津山藩の変貌－「先進藩」への軌跡－(磯田道史)
 報告④：ロシア船・ロシア人・箕作阮甫
 －日露交流と津山の洋学－(岩下哲典)
- ・ 新館開館記念企画展報告 工芸にみる江戸の阿蘭陀趣味 57
- ・ 箕作阮甫自筆本に所収の二編、
 訳述『書估』と宇田川榛斎『綿紙造法』 野村正雄 77
- ・ 森島中良の著作と考察される『藪さかし』の翻刻 土井康弘 104(1)

○第19号 平成23年(2011)12月発行 800円

- ・ シェイス著『オランダ日本開国論』付属資料Ⅱ
 「オランダ海軍日本分遣隊の歴史」 小暮実徳 1
- ・ 箕作阮甫が添役で登場の蘭学小話二題 野村正雄 87
- ・ 上野公園 人違いボードイン像の顛末－37年目の全面解決 石田純郎 103
- ・ 平成22年度企画展報告
 地域に生きて－蘭方を学んだ医師たちのくらし－ 109
 日本が描いた異国－印刷博物館企画協力－ 117
 生誕180年記念
 美作の板垣退助と呼ばれた医師 仁木永祐 130
- ・ 開成所に在職した竹村萬次が発信した書簡 土井康弘 160(25)

- ・京都の蘭方医、越智崧が記した随筆
『ねさめのよまい』の翻刻 土井康弘 184(1)

○第20号 平成24年(2012)12月発行 800円

- ・幕府歩兵の創設と展開－常野の乱を中心として－ 福田舞子 1
- ・井岡冽の人物像 小宮佐知子 29
- ・青年期における宇田川榕菴の蘭学受容
－『理学發微』を中心に－ 野村正雄 39
- ・平成23年度企画展報告
彩生－オランダ伝統の技と美－
kinukoヒンダローペンスタジオ創立20周年記念展 53
資料が秘めた物語 60
蛮書和解御用創設200周年記念 蛮書和解御用と津山藩の洋学者
－オランダの百科事典翻訳と格闘した宇田川家・箕作家のひとびと－ 69
幕末維新を駆け抜けた女医 光後玉江 86

○第21号 平成26年(2014)2月発行 800円

- ・牧野富太郎の報告文と標本 加藤僖重 1
- ・明治期女子中等教育と久原躬弦著『女子教育化学と鉱物』 長田直子 45
- ・世界の高山の標高を巡る訳述とその原典
－『窮理通』、『鶯毛筆乗』、『坤輿図識補』など－ 野村正雄 69
- ・平成24年度企画展報告
万病に挑む－在村医たちの足跡を追って－ 91
地図で世界を旅しよう!! 95
牧野富太郎生誕150年記念 首都大学東京付置機関 牧野標本館協力企画
植物に魅せられた二人－シーボルトと牧野富太郎の植物標本－ 99
良薬口に苦し－くすりと人のあゆみ－ 111
- ・『錦窠先生通信録』の翻刻 －乾ノ一(2の1)－ 土井康弘 152(1)

○第22号 平成27年(2015)3月発行 800円

- ・シーボルトの絵師、川原慶賀と
Carel Hubert de Villeneuveによる絵画制作について 野藤 妙 1
- ・宇田川榕菴訳『生石灰之鮮凝力』とその原著 野村正雄 17
- ・宮本周安『采真謾筆』
－馬場佐十郎、吉雄忠次郎、青地林宗、岩崎灌園らが語る
文政7～9年の江戸の蘭学事情 吉田 忠 43
- ・平成25年度企画展報告
 - 生誕180年記念 岸田吟香～わがふるさとは～ 75
 - 杉田玄白生誕180年記念 解体新書と美作の洋学者たち 79
 - よみがえる長崎出島のくらし 83
 - くらしと実学－在村知識人の活動－ 91
- ・『錦窠先生通信録』の翻刻 －乾ノ一(2の2)－ 土井康弘 120(1)

○第23号 平成28年(2016)2月発行 800円

- ・松平齐民、宇田川榕菴、大槻磐溪の絵図史料
－鞘絵「花魁」と『和蘭王国軍装図譜』の事例－ 野村正雄 1
- ・文久の小笠原群島開拓に基づく地図と真景図
－藩主松平齐民の張込帳に新種の地図も－ 野村正雄 9
- ・宮本周安『采真謾筆』－補遺 吉田 忠 29
- ・平成26年度企画展報告
 - 花、開く－榕菴の植物研究－ 31
 - 未公開資料を中心とした 資料・モノ・がたり 39
 - 新館開館5周年記念 平戸松浦家伝来の至宝 47
 - 生誕190周年記念 箕作秋坪 61
- ・＜資料紹介＞ 中澤廣江宛て箕作秋坪書簡にみる三叉学舎 田中美穂 78(19)
- ・『錦窠先生通信録』の翻刻 －乾ノ二－ 土井康弘 96(1)

○第24号 平成29年(2017)3月発行 800円

- ・『善多尼訶経』の危うさ 幸田正孝 1
- ・箕作阮甫による蘭語の博物館関連用語の和訳について 臺 由子 69
- ・ナポレオン伝と箕作阮甫
- ベルアリアンセ／スコーンフルボンド戦記を中心に 野村正雄 93
- ・柴田収蔵の集書活動－『柴田収蔵日記』に出る蘭学関係書－ 吉田 忠 113
- ・平成27年度企画展報告
- 久原洪哉生誕190周年記念 津山藩医久原家の幕末・明治 143
- 明治天皇の侍医頭 岡玄卿 147
- 解剖図の世界－江戸から現代へ－ 151
- 津山藩の絵師鋏形家と洋学者 159
- ・『錦窠先生通信録』坤、補にある伊藤圭介の川口鴛宛て書簡の翻刻
土井康弘 182(1)

○第25号 平成30年(2018)3月発行 800円

- ・牧穆中の訳述『ベルリン青製法』と蘭書原本
- －宇田川榕菴『舎密開宗』との関連など－ 野村正雄 1
- ・オランダ王国の日本開国論 今津浩一 19
- ・平成28年度企画展報告
- 日本とロシア－箕作阮甫・秋坪の対露交渉－ 43
- 言の葉の海へ－オランダ語翻訳に挑む－ 49
- 生誕170周年記念 日本近代法学の祖 箕作麟祥 55
- 山田純造生誕180周年記念 海田の医家 山田家の人と学問 67
- ・＜資料紹介＞ 山田家所蔵「乳巖図」について 田中美穂 75
- ・長谷川仁氏旧蔵「伊藤篤氏資料」について
- －伊藤圭介から孫篤太郎への学の継承に関する考察を兼ねて－
土井康弘 110(1)

○第26号 平成31年(2019)3月発行 500円

- ・点字以前 18-19世紀の日本における盲人の身体と
文字表記技術の交差 木下知威 1
- ・『泰西国法論』稿本他にみる西洋法認識の東洋的前提
-司法・治道・仁政- 山口亮介 113
- ・安積良斉『洋外紀略』(漢文)の蘭・和・漢原本
-ヒュブナーの蘭書、箕作省吾の蘭書和訳、漢籍『平夷策』他-
野村正雄 135
- ・平成29年度企画展報告
 - 箕作家の人々-秋坪の4人の息子たち- 157
 - 和時計-西洋の技、日本の心- 161
 - 絵画史料に見る江戸の洋楽事始 167
 - 日本の化学の夜明けと津山の洋学者 173
- ・南蛮通詞からオランダ通詞へと転身したころの、
西吉兵衛蘇安の職務 土井康弘 204(1)

○第27号 令和2年(2020)3月発行 500円

- ・緒方洪庵と丸尾玄俊-津山種痘館の成立をめぐる- 浅井允晶 1
- ・宇田川榕菴稿『和蘭邦訳洋楽入門』の原典解明と
ニュートンによる音階と虹色の対応 野村正雄 23
- ・平成30年度企画展報告
 - 明治150年記念
 - 洋学資料館所蔵資料から見た文明開化と美作の医学 53
 - 洋書が伝えた不思議な生き物 57
 - 天を測り 地を量る 61
 - 美作地域の華岡門人 69
- ・ブレスケン号事件の発生から、乗組員釈放までの
期間における西吉兵衛蘇安 土井康弘 94(1)

○第28号 令和3年(2021)3月発行 500円

- ・箕作元八の見たフランス革命 長井伸仁 1
- ・平成31・令和元年度企画展報告
 - 生誕250年記念 杉田玄白門人 小林令助 27
 - 箕作家の歴史研究－西洋史はどう伝わったか－ 31
 - 武雄×津山交流展示 日本を動かす！－武雄の蘭学－ 35
 - 津山藩の英学事始 43
- ・17世紀における阿蘭陀通詞出身医師の医学思想
 - －西流外科研究の成果と課題－ 近都兼司 74(20)
- ・1644年に江戸から長崎に戻った西吉兵衛蘇安
1644年8月1日にカストリクム号が長崎に来航する以前を中心として
土井康弘 94(1)

○第29号 令和4年(2022)3月発行 500円

- ・箕作阮甫の漢詩を平仄作法で検証 野村正雄 1
- ・米国議会図書館蔵『俚巷風話』第3巻について
 - －幕末のちまたのうわさ話集のうちペリー来航関係史料－ 今津浩一 25
- ・令和2年度企画展報告
 - 資料が秘めた物語Ⅱ 45
 - 箕作博士の水族館 神奈川県立生命の星・地球博物館 企画協力 49
 - 新館開館10周年記念 シーボルトと岡山の洋学者たち 53
 - 仁木永祐と靱山鬻をめぐる人々 61
- ・1644年8月1日にカストリクム号が長崎に来航してから、
同年9月15日までの西吉兵衛蘇安 土井康弘 100(1)

○第30号 令和5年(2023)3月発行 500円

- ・別段風説書の取り扱いと翻訳作業－江戸訳の場合－ 松本英治 1
- ・令和3年度企画展報告
 - 資料が秘めた物語Ⅲ 25

あれも薬 これも薬 29

生誕200年記念 宇田川興斎 33

・ <史料紹介> 慶応三年 薩摩藩家老岩下佐次右衛門のパリからの書簡
相澤みのり 58(39)

・ 1644年11月24日に離日する、オランダ商館長エルセラックが
長崎奉行馬場利重から伝えられた江戸幕府の海外への非関与姿勢について
土井康弘 96(1)

※ 編集事務局より

平成4年(1992)3月に創刊された洋学研究誌『一滴』は、昨年に第30号を発刊することができた。創刊以来、ほぼ毎年1号のペースで刊行されてきた本誌は、「一滴の油これを広き池水の内に点ずれば散って満池に及ぶとや」という『蘭学事始』の一節に因んで命名された。「創刊のことば」によれば、「津山における洋学研究のささやかな営み」が「この分野における全国的な活動にいささかでも貢献する」ことを意図しての命名であることがわかる。とは言え、限られた職員数で誌面を埋めることは困難で、全国の洋学研究者からの論考ご寄稿によって刊行を継続できたのは、たいへん有り難いことであり、ご寄稿いただいた研究者各位に改めて感謝申し上げる次第である。

『一滴』の論考リストは、今までにも洋学資料館のホームページ上で各号ごとに掲載してきたが、全体を通覧できる形にはなっていないため、30号を超えて多数にのぼった収録論考の検索を容易にすべく、この目録を作成・掲載するものである。これに合わせて、ホームページ上にもテキストデータ化したPDF目録を掲載しているので、参照のうえ広くご活用いただきたい。

【PDF目録掲載箇所】 <http://www.tsuyama-yougaku.jp/hannpusiryou.html>